

藤井大地 (東京大学)







 境界形状を変化させて最適な形状・位相を 求める。



境界形状を変化させる問題点

- 解析が進むにつれて、有限要素メッシュが 異形になり、再メッシュが必要になる。
- 位相が変化する問題への適応が難しい。









整数計画問題

微分不可能問題

位相最適化の手法

- 連続緩和法(整数条件の緩和)
 - 均質化設計法(ミクロ的な材料のON/OFF)
 - 密度法(材料定数が密度のべき乗に比例)
- 離散最適化問題として解く方法
 - 遺伝的アルゴリズムを利用した方法
 - セル・オートマトンを利用した方法
 - ESO法(Evolutionary Structural Optimization)





質量制約条件下で外力の仕事量の最小化

均質化設計法の目的関数

- 従来の最適化問題
 - 応力の制約条件の下での重量の最小化
- 均質化設計法
 - 重量制約条件の下でのコンプライアンス(外力の仕事量)の最小化
 - さらに一般的には、最小ポテンシャルエネル
 ギーの最大化

なぜ応力の制約を用いない?

■ 連続体ではいたるところで応力は発散!



なゼコンプライアンスの最小化?

- コンプライアンスを最小化することで構造物の剛性が最大化される。
- 応力は局所的に発散してもコンプライアン スは有限値となる。
- コンプライアンスと応力との間には関係があり、コンプライアンスが最小化されれば、 最大応力も抑えられる。
- 感度解析が非常に容易になる。



- 外力が与えられる問題では、コンプライア ンスの最小化
- 変位が与えられる問題では、コンプライアンスの最大化
- 外力が与えられる問題も、変位が与えられる問題も、最小ポテンシャルエネルギーの最大化問題となる。

均質化設計法の最適化問題

$$\max_{\boldsymbol{\alpha}\in\mathbf{L}} \left[\min_{\mathbf{v}_{0}\in\mathbf{K}} \left[\Pi(\mathbf{v}_{0}) = \frac{1}{2} \int_{D} (\partial_{\mathbf{x}} \mathbf{v}_{0})^{T} \mathbf{D}^{H}(\boldsymbol{\alpha})(\partial_{\mathbf{x}} \mathbf{v}_{0}) dD - \int_{\Gamma_{T}} \mathbf{v}_{0}^{T} \mathbf{t} d\Gamma \right] \right]$$

$$\mathbf{L} = \left\{ \boldsymbol{\alpha} | 0 \le a \le 1, \ 0 \le b \le 1, \ \int_{D} \rho dD \le m_{s} \right\}, \quad \mathbf{K} = \left\{ \mathbf{v}_{0} | \mathbf{v}_{0} = \mathbf{g} \quad \text{on } \Gamma_{D} \right\}$$





有限要素法による離散化

$$\min_{\alpha \in L} \left[d^{T} \mathbf{K}_{0} d \right], \quad \mathbf{L} = \left\{ \alpha \middle| 0 \le a \le 1, \ 0 \le b \le 1, \ \int_{D} \rho dD \le m_{s} \right\}$$
要素剛性マトリックス
$$\mathbf{K}_{0e} = \mathbf{T}_{e}^{T} \int_{D_{e}} \mathbf{B}_{0}^{T} \mathbf{D}^{H} \mathbf{B}_{0} dD_{e} \mathbf{T}_{e}$$

均質化弾性マトリックスの離散化

$$\mathbf{D}^{H} = \int_{Y} \mathbf{D} dY - \mathbf{X}^{T} \mathbf{K}_{1} \mathbf{X}$$



計算の効率化

- 均質化弾性マトリックスD^Hのデータベース化
 穴の大きさa,bに関してデータベースを作成する。
 - データベースの値を利用して、その間の値は補 間関数を用いて補間する。
- ユニットセルの角度 θ は, その要素の応力の主軸方向に一致させる。



フィルタリング法

- 境界線長さの制約法(Perimeter control)
 - チェッカーボードを防ぎ、シンプルな位相形状を 求めることができる。
 - グレースケールを防ぐ処理を付加する必要がある。
- 重力制御法(gravity control)
 - チェッカーボードもグレースケールも同時に防ぎ、 シンプルな位相形状を求めることができる。









要素密度が0,0.5,1の場合のgravity control 関数g_i値

フィルタリングの導入法

$$\min_{\alpha} \begin{bmatrix} C(\alpha) = \mathbf{U}^T \mathbf{K} \mathbf{U} \end{bmatrix} \quad \alpha = \{a_1, a_2, \dots, a_N, b_1, b_2, \dots, b_N\}$$
subject to :
$$W = \sum_{i=1}^{N} (1 - a_i b_i) \le \overline{W}, \quad 0 \le \alpha_i \le 1, \quad i = 1, \dots, 2N$$

① 制約条件として加える

$$G \ge \overline{G}$$

ただし、 $G(\alpha) = \sum_{i=1}^{N} \sum_{j=1}^{m_i} \left[\rho_i \rho_j + (1 - \rho_i) (1 - \rho_j) \right] / \sum_{i=1}^{N} m_i$

最適化問題の解法

- 逐次線形計画法(SLP)
 - 制約条件の扱いが易しくロバスト性が高い
 - 対称問題を解いても対称な位相が求まらない
- 最適性規準法(OC)
 - 制約条件の数は限られるが収束が速い
 - 対称問題では対称な最適位相が得られる
- 凸線形化法(CONLIN)
 - 多数の制約条件を扱え、収束も速い
 - 対称問題では対称な最適位相が得られる。



<u>ラグラジアンの定義</u>

$$L(\alpha) = C(\alpha) - \Lambda \left(\sum_{i=1}^{N} (1 - a_i b_i) - \overline{W} \right) - \Lambda_g \left(\overline{G} - G(\alpha) \right)$$

歪みエネルギーの2倍
(平均コンプライアンス) 質量制約条件

重力制御関数
制約条件

$$\alpha = \{a_1, a_2, \dots, a_N, b_1, b_2, \dots, b_N\}$$
: 各要素のミクロ構造ユニットセルの穴の大きさ
穴の角度 θ は要素中心の応力の主軸方向





ラグラジアン最小化の条件





$$a_{i}^{(k+1)} = \begin{cases} \max\{(1-\zeta)a_{i}^{(k)}, 0\} & \text{if } s_{ai}^{(k)} \leq \max\{(1-\zeta)a_{i}^{(k)}, 0\} \\ s_{ai}^{(k)} & \text{if } \max\{(1-\zeta)a_{i}^{(k)}, 0\} \leq s_{ai}^{(k)} \leq \min\{(1+\zeta)a_{i}^{(k)}, 1\} \\ \min\{(1+\zeta)a_{i}^{(k)}, 1\} & \text{if } \min\{(1+\zeta)a_{i}^{(k)}, 1\} \leq s_{ai}^{(k)} \end{cases}$$

$$b_{i}^{(k+1)} = \begin{cases} \max\{(1-\zeta)b_{i}^{(k)}, 0\} & \text{if } s_{bi}^{(k)} \leq \max\{(1-\zeta)b_{i}^{(k)}, 0\} \\ s_{bi}^{(k)} & \text{if } \max\{(1-\zeta)b_{i}^{(k)}, 0\} \leq s_{bi}^{(k)} \leq \min\{(1+\zeta)b_{i}^{(k)}, 1\} \\ \min\{(1+\zeta)b_{i}^{(k)}, 1\} & \text{if } \min\{(1+\zeta)b_{i}^{(k)}, 1\} \leq s_{bi}^{(k)} \end{cases}$$

 ζ :設計変数の変動幅を制約するムーブリミット



最適性規準法のパラメータ

- 更新式のべき乗係数β
- 設計変数のムーブリミット
- 設計変数, ラグランジェ乗数の更新回数
 - 感度係数を更新する外側ループの繰返し数
 - 感度係数を更新しない内側ループの繰返し数

$$\beta = 0.25, \zeta = 0.1$$
 外側ループの繰返し数 40回
内側ループの繰返し数 Λ に関しては100回
 Λ_g に関しては5回







(a) $\bar{G} = 0$, G = 0.73



(b) $\overline{G} = 0.8$, G = 0.87, $C/C_0 = 1.02$



(c) $\overline{G} = 0.85$, G = 0.89, $C/C_0 = 1.08$



(d) $\overline{G} = 0.90$, G = 0.90, $C/C_0 = 1.18$



(d) $\overline{m}_s = 0.6$, $\overline{G} = 0.8$, G = 0.89, $C/C_0 = 1.03$

無償公開ソフト(連続緩和法3兄弟)

- 骨組構造の位相最適化ソフト(Otto)
 - グランドストラクチャー法
- 2次元連続体の位相最適化ソフト(Isler)
 - 均質化設計法
- 3次元連続体の位相最適化ソフト(Gaudi)
 密度法



Islerの位相最適化手法 一均質化設計法一





 $\rho = 0.5$

Islerの解析例(Single load)



Islerの解析例(Single Load)



Islerの解析例(Multi Load)



Islerの解析例(Multi Load)









Islerの解析例(Single load)





まとめ

公開ソフトは、下記のホームページからダウン ロード可能。

http://www.nasl.t.u-tokyo.ac.jp/~dfujii/homepage.htm

- 実務での利用を考えておられる方は下記ソフト をご購入下さい。
 - MSC Nastran Opti-shape
 - Altea Opti-struct